

平成 23 年度 第 1 回会計学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成 23 年 10 月 28 日 (金) 午後 5 時 00 分から 7 時 00 分まで
- II. 会場 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者: 岸田委員長、金川委員、松本委員、木本委員、阿部委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

会計学教育における教育改善モデル(中間まとめ案)に対するサイバー会員からのコメントを受け、内容を再度検討、修正を行った。

まず中間モデル案 1 として、委員会で設定された会計学教育における学士力の到達目標のうち、「1. 会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。」についてのコメントを 1 件ずつ詳細に検討した。内容が伝わりにくい表記等に言葉を補充するとともに、特に授業デザインのうち、「2.3 ICT を用いた授業シナリオ」については、「2.1 授業のねらい」との関連性に関する指摘から、議論の結果、授業シナリオに前提条件があった方が好ましいとの結論に達し、「会計情報が社会に与える影響の実態を紹介し、学びの動機づけを行う。」との項目を追加した。また「2.5 ICT を用いて期待される効果」についてもシミュレーションをどのようにとらえるか議論がおこなわれ、より具体的な表現の方がわかりやすいとの意見から文言を追加した。さらに「2.4 ICT を用いた学習内容・方法」との関連性から「ネットを通じて実務家の意見をフィードバックさせることで、会計が社会に果たす重要な役割を理解させることができる。」との項目を追加した。

続いて中間モデル案 2 として、到達目標のうち「3. 組織の経済活動の実態を会計情報として体系的に把握し、問題発見できる。」についてのコメントを同様に 1 件ずつ詳細に検討した。肯定的な意見が多かったが、「2.1 授業のねらい」において、「戦略的な提言ができる」との表記について、「戦略」と会計の接点についての指摘するコメントがあった。この件を含めて、どの範囲まで授業で対応できるか議論をおこない、提言は難易度が高いとの結論に達し、表現を「解決策を検討できる」に改めた。

なお特定のコメントに対しては委員会および協会としての考え方を個別的に回答することとした。

2. 次回までの宿題

教育改善モデルの到達度評価の方法について各自で検討する。

3. 次回の打ち合わせ会

日時：2011年12月2日 午後5時00分～7時00分

場所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

以上